



千葉大学医学部ヨット部報

Vol.25 2014/7

はじめに

そろそろ梅雨も明け始め、夏本番の季節となって参りましたが、先生方におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。先生方には、今年もたくさんの会費・ご寄付を頂き、ありがとうございます。私たち千葉大学医学部ヨット部は、5月に新入生を6人迎え、現在夏の東医体を控え部員一同大きな目標に向かって頑張っております。こうして日々練習に打ち込めますのも、先生方の日ごろの温かいご支援のおかげと部員一同感謝いたしております。

本報では、ヨット部OB会長山浦先生、部長清水先生のご挨拶、全学ヨット部の監督であり、我々医学部ヨット部の監督もしてくださっている斉藤威総監督のご挨拶、山崎先生から徳久先生学長就任パーティーのご報告、新入生の紹介、東医体レースメンバーの挨拶をお届けします。

OB会長挨拶 「くろしお（一世）」と相楽恒俊先輩

OB会長 山浦 晶 (昭和40年卒)

私の学生時代はクルーザー「くろしお」は一世の時代であった。
ディンギーから見上げる「くろしお」は本当に偉大で頼もしく見えた。館山での合宿をめぐりディンギーが集団で回航した際に、「くろしお」が護衛艇として我々に同行した。潮の具合でまだ真っ暗なうちに出航することになり、近くをゆく「くろしお」の大きなセールがくろぐろと星空を遮っている様子を忘れることができない。
私はディンギストであったから、クルーザーにのる機会は少なかったが、一度は大島へ、またある年の1月15日に横浜港へ回航した。大島へ行ったときはかなりの向かい風が吹き、また合羽を着ていても寒い位の季節で、間もなく私はいわゆる“マグロ”となってしまい、ほとんどデッキにふせていた。海に落ちて迷惑をかけないことが私のできる唯一の貢献であった。その時の艇長は中島伸之さんだったか、大河原さんだったか記憶にない。帰路、三崎港によって鮪のぶつ切りをバケツ一杯、買ったか只でもらったかして、暖かい飯に載せて“ああ旨い”と感激した記憶がある。

横浜港行は微風のなか、東京湾は広いようで狭く、海上交通もかなり激しく、突然に迫ってくる巨大タンカーにおののいたものだ。

当時、国立大学でクルーザーを持っているのは千葉大学だけだった。あの時代にクルーザーを所有できたのは、想像するだに難しい位の快挙だった。クルーザー建造のために大活躍されたのが相楽恒俊先輩（昭和 31 年卒）だった。といっても私は、すでに第 1 外科の中堅であった相楽さん（みんなはガラさんと呼んでいた）しか知らない世代なのだが。いつもニコニコと優しそうな先輩であった。無からクルーザーを生じたあの情熱と才覚がどこから、ほとぼしり出たのか想像できなかつた。あるときガラさんを尋ねたとき、そこは 1 外科の薄暗いレントゲン室であったが、ガラさんがいつもの少し疲れたような様相で、しかもこやかに医局員と語られておられたのをはっきり覚えている。なぜかこのシーンをいつも明瞭に思い出すのである。ガラさんは「くろしお」を建造したものの、ご自分ではそれほど楽しんだわけではないらしい。建造後、すぐに「くろしお」に住み込むような若い猛者が現れていた。

しばらくして、ガラさんはがんになって千葉県がんセンターで亡くなった。そのがんは脳にも転移したため、がんセンターの脳神経外科へ一時転科されたことを聞いた。ガラさんは、脳外科の治療にあっても、たいへん穏やかで協力的であったそうだ。

私はヨット部で忘れえない先輩達に何人も出会った。相楽恒俊先輩もその一人である。天国からあの少し疲れた、しかし穏やかな表情でわれわれを見つめていることだろう。

千葉大学医学部ヨット部 OB会長 山浦 晶 平成 26 年 6 月

部長挨拶 「葉山の思い出」

部長 清水 栄司 （平成 2 年卒）

今年は東医体が葉山マリーナで行われるということで、私の葉山の思い出を書きます。私が現役のヨット部時代、昭和 59 年から 63 年（1984 年～1988 年）当時の体育会ヨット部は、葉山で、春夏の合宿をし、夏に館山で合宿をしていました。葉山というのは、正確には、葉山マリーナの南にある、森戸海水浴場（森戸海岸）です。当時、陸送は、2 トン・トラックのレンタカー 2 台に船台を 3 つ重ね、470 を 3 杯、スナイプを 3 杯それぞれ積んで、自分たちで運転してやっていました。当時の 470 は、1704（ゼロヨン）、2330（サンマル）などです。スナイプは、ハルが真っ青な通称「青船」も所有していました。真夜中に、千葉から、湾岸道路を経て、横浜横須賀道路を逗子インターチェンジで降り、逗葉新道を通り、国道 134 号を通過して、葉山につきました。国道 134 号線というと、「ルート 134（ワンスリーフォー）」という、当時流行っていた「杉山清貴&オメガドライブ」というバンドの歌が思い出されます。1983 年から 1985 年は、「杉山清貴&オメガドライブ」が活躍した時期で、彼らは葉山や湘南のことを歌っていたので、私たちの合宿所でも人気があり、ラジカセで良くかかっていました。彼らの曲のタイトルにもなっているのですが、車のリアウインドウのガラスに、パームツリー（ヤシの木）のステ

ッカーを貼っていました。歌の影響もあるのか、私にとって、葉山はロマンのある良いイメージです。浜からは、江の島や富士山が見え、ヨットで海に出ると、森戸神社が帰りの目印になるなど、景色も最高でした。もちろん、四半世紀近くたって、記憶は、だいぶ美化されています。楽しい思い出ばかりではなく、つらい思い出も多くありました（引退後、十年くらい、夜よくレースの悪夢をみて、うなされていましたが、とにかく、当時は、ハイ・テンションで、ヨット部の活動に打ち込んでいました。トラブルの例をあげると、たとえば、ある時は、レスキュー艇がトラブルで森戸海岸に沈んだところを皆で引き上げ、水かきをしました。また、ある時には、嵐の日に、470のラダーが根本でぼっきりと折れて、航行不能になり、1kgのレースアンカーをうったものの漁網の近くまで漂流し、通りがかった漁船に曳航してもらいました。ヨット部の現役の皆さんは、このようなトラブルにあわないよう、十分ご注意ください。そして、どうぞ、この夏、安全で楽しく、葉山のレース活動に打ち込んでください。心には、海への畏敬の念とロマンを忘れずに。

監督挨拶 「2020東京オリンピック・パラリンピックの準備」

千葉大学ヨット部総監督 齊藤 威

昨年9月。アルゼンチンのヴェノスアイレスで行われたIOC総会。日本中のみんなが歓喜に沸いた。再びの東京オリンピック招致が決まった瞬間を迎えたのでした。再びとは1964年の東京大会以来ということ、2016年大会の招致が叶わなかった以来ということになりますが、「あの感動をもう一度とあの悔しさを何としても」の強い思いと「一人ではできない、今すぐにはできない、今までのやり方ではできない」という用意周到な活動があったからこそ招致できたのではなかったでしょうか。

「あの感動をもう一度とあの悔しさを何としても」というのはまさにスポーツを行う、続けたいと思う原動力とも言えます。このことは千葉大学医学部ヨット部員みんなの思いであり、OBの皆さんの思いであり、徳久前部長、清水部長の思いだと思います。私の思いでもあります。今年こそ優勝しましょう。

そして「一人ではできない、今すぐにはできない、今までのやり方ではできない」ということです。この言葉は日本セーリング連盟の山崎達光前会長からお聞きした言葉です。私はこの言葉を聞いて以来、何かにつけてこのことを思いながら仕事やヨットの活動を行うこととしてきました。

まず「一人ではできない」ということです。東京オリンピックの招致成功を振り返ってみましょう。当たり前ですが、オリンピック招致が一人でできるわけがありません。多くの関係者が準備に準備を重ね、IOCの委員の票を獲得しようと努めてきたところですが、2016年の大会招致は残念ながらブラジルのリオに敗れてしまいました。一番の敗因は国民の招致支持率が他の都市に比べて低かつ

たことではないかといわれています。そこで気が付いたわけです。「一人ではできない」と。

そうなんです。「2016年オリンピックを東京で」。というのを「2020年オリンピックを日本で」とスローガンを変えたのです。このことはまさに「一人ではできない」ということそのものではないでしょうか。大阪や名古屋でも誘致を試みましたが、やっとこのことに気付いた結果2020東京大会が誘致できたと私は考えています。そして今大会準備が進められています。私もオリンピックハーバーの整備に向けて、その位置づけや整備コンセプトを提案していますが、これからは多くのセーラーに東京オリンピック・パラリンピックに関与していただきたいと思っています。また、ヨットをよく知らない人もセーリング競技に興味を示し、国民あげて応援して下さるようになって欲しいと願っているところです。

しかし。です。

「一人一人の頑張りが必要」なのです。誰かがやってくれるだろう。みんなでやるのだから、自分はちょっとくらい手を抜いても。ではいずれチームの絆がほどけ、ことが前に進まなくなり、揚句は破たんしてしまいます。個々に与えられた役割を自覚し果たすことが大前提で「一人ではできない」という考えが成り立つのではないのでしょうか。

次に「今すぐにはできない」ということです。

また東京オリンピックの招致を考えてみましょう。招致が決まるまでには多くの歳月がかかりました。大阪や名古屋の誘致合戦も経験しました。石原元都知事が東京でオリンピックをと招致に名乗りをあげてから随分経ちました。これらのチャレンジ精神とたゆまぬ努力とラッキーが招致決定をもたらしてくれました。夢は見るものではなく叶えるものという言葉もあります。練習はうそをつかないという言葉もあります。運も実力のうちという言葉もその通りだと思いました。

そうなんです。ことが成就するには長い時間がかかるのです。今すぐにはできないのです。ことを始めるときには、まずしっかり心すること。そしてしっかり計画をたて準備をすることです。その後は夢に向かって、目標に向かって焦らず、怠けず着実に努力することです。そうしているときっとチャンスが巡ってきます。

しかし。です。

「今すぐにはじめないといけない」のです。何事も最初の一步があってゴールがあります。その一步はなかなか踏み出せないことも多くあります。いわゆる「最大静止摩擦」という厄介な現象があって、止まっているものが動き出すのは大きな力が要ります。止まっている大きな丸い球もほんの小さな石ころが挟まっているだけでなかなか動き出せません。石ころをどけるか頑張って押すかして動き出せば後は少しの力で動き続け、下り坂になれば黙っても先に進んでいきます。どうせすぐにはできないのだから今日はやめておこう、後にしようではなく、思い立った日が吉日なのです。「いつやるの?」「そう。今です。」

次に「今までのやり方ではできない」ということです。

また東京オリンピックの招致を考えてみましょう。大阪や名古屋、そして2016年の東京と誘致に挑んできましたが、なぜ誘致ができなかったのか。日本は経済力もあり治安もいいのに、事前の評価が一番よかったのになぜ？そこで今回は「コンパクト大会」「おもてなし」など更なるアピールとなったわけで、同じく挑戦し続けてきたマドリードやイスタンブールに勝ったのです。

そうなんです。同じようなことを繰り返していたのでは進歩もなく、人の心を動かすことはできないのです。日本の政治も自由民主党政権が長く続き、国民は閉塞感を感じていました。そこで流れを変えようと民主党に期待がかけられ、政権が交代しました。でも今までのやり方から脱皮しきれなかったようでしたね。そしてまた自民党に政権が戻ったところ、停滞が続いていた日本の経済は「アベのミックス」で景気も良くなってきました。ソーシャルイノベーションなのです。改革を求め進化していくことで、新しい時代が切り開かれます。

しかし、です。

「今までのやり方にヒントがある」のです。振り返りや反省、検証も大事なことですし、過去の歴史に学ぶことも大事なことです。そしてやり方のことではなく、そのやり方で成功した、または失敗したことの背景や基本的な考え方、取り組み姿勢をよく考えたり学んだりすることです。多分に哲学や信念といったことを心してことにあたる必要があると思うところです。

以上「一人ではできない、今すぐにはできない、今までのやり方ではできない」ということを記しましたが、最後にこれらのことを横断的に、立体的に、総合的にとらえて、来る東医体でも優勝できるように頑張っていたいただきたいものです。医学の勉強もです。

徳久剛史教授学長就任祝賀会

山崎 一樹 (平成15年卒)

平成26年5月11日(日)の夕方、千葉大学亥鼻キャンパスの新同窓会館にて、ヨット部OBである徳久剛史先生の学長就任パーティを開催しました。現役の医学部ヨット部員37人、OB36人が集まり、真新しく、白色眩しい多目的ホールにて盛大に行われました。ヨット部部長 認知行動生理学教授 清水栄司先生(平2)より開会の辞、ヨット部OB会長 脳神経外科学前教授 山浦晶先生(昭40)より会長挨拶、吉井耳鼻咽喉科医院院長 吉井功先生(昭34)より乾杯の御発声をいただきました。大先輩方からは徳久先生へのお祝いの言葉だけでなく、レースや練習の思い出、ヨット部を通じて得た教訓を伺うことができました。我々OBにとっては稲毛や江ノ島でヨットを走らせていた現役部員時代を思い出させてくれる、懐かしく世代を越えて共感を憶えるものでした。

我が千葉大学の新たなリーダーとなった徳久先生より、リーダーの姿勢とそのあり方に

ついでのお言葉を賜りました。学生には学生の、部活には部活の、医師には医師の解決すべき課題や乗り越えるべき壁があります。組織のメンバーや役割・位置づけが変われば、リーダーはその組織に適したマネジメントを行う必要があります。我々が青春を捧げたヨットは、優しさと荒々しさをともに包含した海を舞台として行われる競技です。この競技には、楽しさ・美しさと危うさ・厳しさが背中合わせに存在します。様々な価値観を持つ多数の人間で構成される部活動という組織が、チームや個人の安全に配慮しながら一丸となって勝利を目指していくには、ルールと強いリーダーシップが不可欠です。「ヨット部のキャプテンに任命された者は、貴重な経験をしていると思いなさい。それが将来の糧になっていくだろう」というお言葉は現役部員だけでなく、我々OBにも深く刻み込まれたものでした。

本会に併せて、医学部ヨット部の新入生歓迎会も行われました。新たに迎えた6人の新入部員たちも、数ヶ月後には真っ黒に日焼けして海にいることでしょう。大先輩から新入生まで一同に介する貴重な機会でありながら、笑いの絶えないパーティーではあっという間に時間は過ぎていきます。部活動のつながりは一生続くことに感謝しながら、夜は更けていきました。



新入部員の言葉

2014年度は6名（男子3名、女子3名）の新入生が入部しました。夏まではまだまだヨットに乗る機会は多くはないものの、ヨットという新しい競技をどんどん吸収してっていきます。ますます大きくなっていくヨット部の原動力となっていってくれると思います。

それでは新入部員たちの挨拶です。

佐藤 玲子 （桜蔭）

ヨットのこと、いっぱい知りたいなと思っています。頑張ります！よろしくお願ひします。

高橋 誠志郎 （開成）

新入生の高橋誠志郎と申します。楽しみながらも真剣にヨット競技に打ち込んでいきたいと思っています。よろしくお願いします。

千葉 えみり （桜蔭）

ヨット部に入部しました。これから頑張っていきたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。

林 亮佑 （東邦大東邦）

全力で練習して、上手くなって、同学6人全員で必ず最後までやり抜きます。よろしくお願いします。

凌 将登 （東邦大東邦）

はじめまして、練習も頑張りますし遅刻して皆さんに迷惑をかけないようにします！

和田 七海 （女子学院）

まだわからないことも多いですが、これからヨットについていろいろ学んでいくのが楽しみです！一生懸命頑張りたいと思います。

2014年 東医体レースメンバー紹介

今年も、医学部ヨット部の最大の大会である東日本医科学生総合体育大会（東医体）が近づいてきました。今年の東医体は、8/6～8/10に、例年の江の島ヨットハーバーとは異なり、葉山新港にて行われる予定です。今年は、以下のように組んでレースに臨みます。

先生方の温かいご声援をどうぞよろしくお願いします。当日は観覧艇も出ます。是非、レースの応援にいらしてください。

Sail Number	スキッパー	クルー
JPN-4486	涌井 凜子（5年）	島田 遼（3年）
JPN-4413	古谷 慶太（5年）	長久保 源太（3年）
JPN-4305	荒木 岳（5年）	大和田 彩夏（3年）
JPN-4224	坂崎 仁美（5年）	石原 慶（3年）
JPN-4143	栗原 滉平（5年）	駒井 佑哉（3年）

それでは本年度のレースメンバー達の挨拶です。

<JPN-4486>

涌井 凜子

学年が上がるごとにより好きになったヨットに乗る日々も残りわずかとなりました。クルーとの信頼関係は誰にも負けないと思うので、力をあわせて最大限のパフォーマンスを東医体で発揮できるよう、頑張っていきます。応援よろしくをお願いします！

島田 遼

健康第一！ケガなく、沈なく安全運航でいきたいと思います。



<JPN-4413>

古谷 慶太

OBの先生方の支援や、6年生・後輩のこれまでのサポートに応えられるよう、全力を尽くしたいと思います。

長久保 源太

4413クルーの長久保源太です。東医体まで練習時間は残り少ないですが、着実にレベルアップができたと思っています。この船の緊張しやすさはもはやご愛嬌です！応援と和ませをお願いいたします！



<JPN-4305>

荒木 岳

4305の、そしてチームの優勝を再び奪還できるよう力の限り頑張ります。応援よろしくをお願いいたします。

大和田 彩夏

4305クルーの大和田彩夏です。一昨年、昨年と、先輩方からいろんな感動をいただいた東医体ですが、今回は自分が出場するということで、OBOGの先輩方、部員、応援して下さいる皆さん全員に喜んでもらえるよう、最後まで頑張ります！応援よろしくをお願い致します。



<JPN-4224>

坂崎 仁美

東医体にむけ今できることを精一杯がんばります！応援よろしく申し上げます。

石原 慶

4224クルーの石原慶です。入部して2年、精一杯努力してきた成果を発揮し、皆様のご期待に応えられるよう頑張りますので、応援よろしく申し上げます。



<JPN-4143>

栗原 滉平

今年は最後の東医体なので、がんばります！

駒井 佑哉

自分のやってきたことと、スキッパーを信頼して、諦めずに走り抜いて、最後はみんな笑顔で終わりたいです。応援よろしくお願いします。



医学部ヨット部の夏の日程

8/6～8/10 東医体（葉山新港）

8/6 プレレース

8/7 女子レース

8/8～8/10 本戦（10日に引退式・幹部交替式）

8/12～8/14 関東医科歯科学学生ヨットレース（葉山新港）

8/12 プレレース

8/13～8/14 本戦

8/16～8/20 稲毛合宿（稲毛ハーバー）：1年クルー・2年スキッパー養成合宿

2014年度 現役部員名簿

部長	清水 栄司教授						
6年	園田 至人	4年	主将	山本 大基	2年	阿部 照	
	青木 里衣		主務	小川 美咲		遠藤 雄二	
	井尻 直宏		会計	古谷 誠		生嶋 光	
	小林 祐介			石坂 昌太郎		西川 侑成	
	三井 健大朗			西織 浩信		広川 友美	
	山川 祐司			浦野 亮		荻原 由梨奈	
5年	栗原 滉平	3年		石原 慶		張本 英男	
	涌井 凜子			大和田 彩夏	1年	佐藤 玲子	
	荒木 岳			駒井 佑哉		高橋 誠志朗	
	坂崎 仁美			島田 遼		千葉 えみり	
	古谷 慶太			長久保 源太		林 亮佑	
				中島 理子		凌 将登	
				相原 優美		和田 七海	

あとがき

現在私達千葉大学医学部ヨット部は、東医体優勝に向けて日々練習に励んでおります。今年例年とは異なり江の島ではなく葉山新港からの出艇となっております。合宿所がハーバーから近いということもあり、例年以上にヨットに集中できる環境になっていると思います。

このように、部が活気を持ち活動を行うことができるのも、日頃からの諸先生方の御支援御協力のおかげと、大変感謝しております。今年の夏も、先生方には是非良いご報告ができますよう精一杯頑張ってまいりたいと思いますので、温かいご声援をどうぞよろしくお願い致します。

9月には稲毛ヨットハーバーにてOBレースを予定しております。詳細は追ってご連絡させていただきます。ご多忙の折とは存じますが、多くの先生方のご参加をお待ち申し上げます。

また、私たちの活動状況・レース結果などは、ヨット部のホームページにも掲載しております。お時間のある際には、是非ご覧になってみて下さい。

<http://chibamedyacht10.web.fc2.com/>

編集後記

千葉大学医学部ヨット部報もおかげさまで第25版を迎えることができました。今回の発行にあたり、寄稿して頂いた先生方には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。冬には、夏の大会の結果を載せた部報を発行したいと考えています。良い結果を報告できるよう頑張りますので、是非東医体・関東医科歯科戦に注目しててください。

4年主務 小川美咲